



戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。

■ 新年のご挨拶 ■

芦屋ユネスコ協会 会長 山中 健



芦屋ユネスコ協会の皆様、明けましておめでとうございます。
昨年は元旦早々能登半島地震が発生、また9月には豪雨にも見舞われて、なかなか能登の復興は進んでいない状況です。そのような中、昨年1月6日～8日にはユネスコ協会役員の皆様が、JR芦屋駅周辺での募金活動に立ち、早々に被災地の能登半島へ22万円余をお送りすることができました。

私ども協会も一日も早い能登の復興を心からお祈りいたしますとともに、機敏に行動された会員の皆様方に心から感謝を申し上げます。



そして本年1月17日、あの阪神・淡路大震災から30年を迎えました。犠牲になられた方々、ご遺族の皆様にご心遣いを込めて追悼の意を捧げたいと存じます。そして、未来を生きる方々へその思いを繋いでいきたいと存じます。

また一方、世界では戦争・紛争の渦中であって自由な生活もままならない多くの人々がこの同じ空の下にいることを思いますと、本当に胸が激しく痛みます。ユネスコ憲章前文にある「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」という言葉を、戦争当事国のリーダーにかみしめてほしいものです。

さて、本年は戦後80年という節目の年です。私たちは8月15日の「平和の鐘を鳴らそう」行事ほか、多くのユネスコ活動を進める中、平和への思いを新たにすることがあります。

本年が皆様にとりまして平和で幸せ多い一年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

◆ 「世界寺子屋運動」— 書き損じハガキ等 回収にご理解・ご協力を！ ◆

昨年度の「書き損じハガキの回収キャンペーン」では、各地のユネスコ協会から寄せられた募金額は約3,389万円でした。

その内、芦屋ユ協では約9万4千円を送ることができました。

昨年度新たに完成した寺子屋は1軒、カンボジアとネパールで2,402人の人々に学びの機会を届けることができましたとのこと。

政情不安が続く中、アフガニスタンでは職業訓練事業の準備を行い、ミャンマーからバングラディッシュに逃れた若者への識字等の支援を行えました。

世界寺子屋運動は多くの皆様に支えられ、これまで44カ国1地域で540の寺子屋を建設、135万人以上に教育の機会を提供しました。書き損じハガキや未使用切手、テレホンカードや金券の回収等、引き続き皆様のご理解・ご協力を賜りますよう、よろしくご祈り申し上げます。



2024 年度 年末講演会 & 親睦会



左から、姫野伴子大使夫人、姫野大使、高島芦屋市長

昨年12月17日(火)、2024年度「年末講演会 & 親睦会」は、政府代表 / 特命全権大使（関西担当）をお招きし、ホテル竹園を会場に盛大に開催されました。

芦屋ユネスコ協会が、このように年末に歴代の大使をお招きし講演会が開催されるようになったのは、阪神・淡路大震災後にわが協会が再スタートした2000年からです。

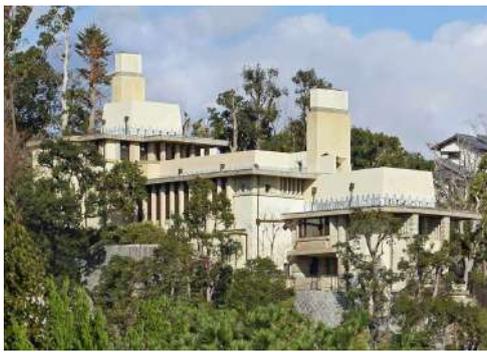
今回の年末講演会は、姫野勉特命全権大使から「外務省・全権大使の仕事ー特朗普新大統領と日本・世界の行方」についてお話を伺いました。



、姫野大使

特命全権大使として海外に派遣される際には、外務大臣が申し出、内閣が任免、天皇がこれを認証した「信任状」が託されるということで、前赴任国の時のコピーを見せてくださいました。それを相手国の元首に示すことで、外交交渉、条約の調印・署名、滞在する自国民の保護などの任務を行うのが特命全権大使のお仕事であるとのお話でした。

また特朗普新大統領と日本・世界の行方についても、貴重なお話をお聞きできました。



ヨドコウ迎賓館（旧山邑家住宅）

一方、昨年度に竣工100周年を迎えたヨドコウ迎賓館を記念し、芦屋市国際文化推進課学芸員・竹村忠洋様からは「芦屋の未来遺産とヨドコウ迎賓館」についてお話を伺いました。



竹村 忠洋 様

当協会が発行し、市内の小学3年生に社会科の副読本の補助資料として供している「芦屋の未来遺産」。その推進委員会オブザーバーでもある竹村様は、平成22年(2010)に実施した「市民アンケート」をまとめ刊行した『芦屋の未来遺産』、現在のように

社会科副読本・補助資料として3年に一度改定版を発行するようになった経緯などを紹介。

また、ヨドコウ迎賓館は灘五郷の山邑酒造（現・櫻正宗）株式会社八代目当主・山邑太左衛門の別邸として大正13年（1924）に建てられ、現在は㈱淀川製鋼所が所有し一般公開されていること。設計は、近代建築の巨匠フランク・ロイド・ライトで、弟子の遠藤新と南信の実施設計・施工監理によって竣工したこと。昭和49年（1974）には建物が国の重要文化財指定され、令和6年（2024）8月には敷地全体も国指定重要文化財となり、令和5年（2023）には敷地内の発掘調査が行われ、建設当初の図面にある温室や渡り廊下の遺構が見つかったことなど、たくさんの映像を交えてお話しくれました。



伴奏・阿部真理子様 テノール・弓場 徹様

そして、今回も高島峻輔市長（芦屋ユネスコ協会顧問）の乾杯の挨拶で、会食と親睦会がスタートしました。

会食時には、今回も平和を祈って、阿部真理子様のお伴奏、弓場徹様の美しいテノールの歌声で、讚美歌曲などをご披露いただきました。

その後、お楽しみのビンゴ大会も開催。会場はひと時、年末の気ぜわしさを忘れ、大使ご夫妻やご来賓、また会員の皆様もともになごやかな雰囲気になりました。



野村大祐教育長

野村教育長（芦屋ユネスコ協会顧問）による「閉会の挨拶」に続いて、エンディングでは会場みんなが輪になって「ジングルベル」「赤鼻のトナカイ」「蛍の光」を合唱、2024年の宴を大団円の内に終えました。